

読谷村観光協会の提供する「平和学習」とは…

- 1, 我々は、史実に基づき沖縄戦の実相を伝え、考えていただきます！
- 1, 我々は、「命(ぬち)どう宝(命の大切さ)」を伝えます！
- 1, 我々は、人が悲しみや苦難を乗り越えられる力がある事を伝えます！

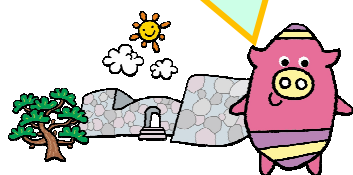


読谷村のサトウキビ畑

注意事項

- ◆ 戦跡は、ガマなどの自然の中を散策しますので動きやすい履物をおすすめします！
- ◆ 一般道や自然の中を散策しますので、足元や交通安全などご自身でもご注意を！
- ◆ 突然の天候の変化がありますので、雨具等のご持参をお願いいたします！
- ◆ 沖縄の直射日光は非常に強いので、熱中症対策は万全をお願いいたします！

ガイド派遣について
お問い合わせ
待ってるトッ♪



一般社団法人
読谷村観光協会

〒904-0302

沖縄県中頭郡読谷村字喜名2346-113

読谷村地域振興センター1階

TEL : 098-958-6494 FAX : 098-979-6558

Mail info@yomitan-kankou.jp

URL <http://www.yomitan-kankou.jp>

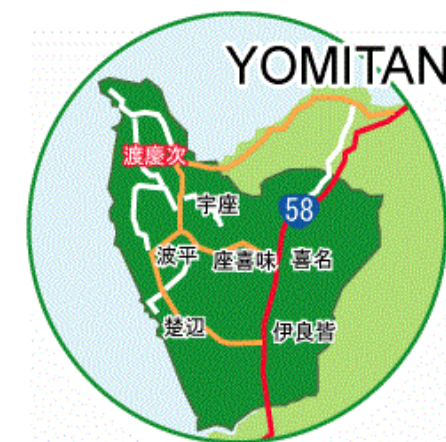


76年前…あの沖縄戦は、この地から始まった…

よみ たん そん
読谷村

平和学習

メニュー



「よみたんブランド」
パワーアップキャラクター
よみとん

昭和20年4月1日、一瞬にして戦火に包まれた読谷村 2つのガマの「明」と「暗」とは？

チビチリガマ

アメリカ軍の沖縄本島上陸の翌日1945年（昭和20）4月2日、鬼畜と教えられたアメリカ兵の残虐な仕打ちを恐れて、肉親相互が殺しあうという凄惨な地獄絵図を現出したといわれる「集団自決」が行なわれた所です。

この洞窟への避難者約140人の内、住民83人が非業の最期を遂げたということです。

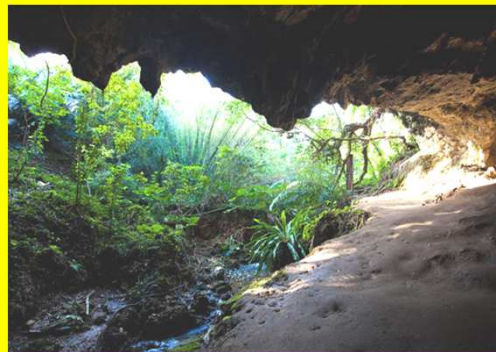
後に人々は犠牲者の死を悼み、永久平和を祈念して「チビチリガマ世代を結ぶ平和の像」を建立しました。



シムクガマ

ガマの中には、ハワイからの帰国者、比嘉平治（当時72歳）と比嘉平三（当時63歳）の2人が「アメリカ人は人を殺さないよ」と、騒ぐ避難者たちをなだめ説得して、ついに投降へと導き、1千人前後の避難民の命が助かったということです。

この事実に基づいて波平区では、命を救った二人の先輩に感謝の意をこめて洞窟内に救命洞窟の碑を建立しております。



梯梧(デイグ)の塔

昭和20年4月1日、強大な米軍の上陸により瞬く間に戦火に包まれ、半日で日本兵の半数を失い、翌4月2日に米軍の重火器による包囲攻撃を受け、ほぼ全滅となりました。

戦火が止み、地元喜名の住民たちは、大変な戦争被害を受け苦しい生活状況の中、山野に散乱している兵の遺骨収集にあたり、1956年7月に慰霊碑を建て「梯梧の塔」と命名し、60年あまり供養のための香華が絶えることなく丁寧に祀られています。



米軍上陸の地碑(渡具知ビーチ)

この地「渡具知」は、比謝川の河口という事もあり、昔から船着き場として外来文物の受入口として栄えていました。しかしながら、その立地の良さはまた、外敵の侵入口ともなり、忘れる事のできない惨劇をこの地にもたらしたのです。

第2次世界大戦末期の1945年4月1日、米軍はここに上陸し、一般住民を巻き込んだ悲惨な沖縄戦はここから始まりました。同じ歴史を繰り返さない為、ここに反戦の願いを込め、米軍上陸の地碑を建立されています。



戦中・戦後…そして
未来へ向かう読谷村の
息吹を感じられます。

かつての戦地が今では：



やちむんの里

この地は米軍統治下時代、不発弾処理場でした。基地返還闘争の中、跡地利用として「やちむんの里」構想が生まれました。1972年、後の人間国宝となる金城次郎氏を招致し、多くの陶工を輩出しました。現在は、20以上の窯元が里内に工房を構え、県内でも最大級といわれる9連房・13連房の登り窯を見る事ができます。



ホテル日航アリビラ

上陸した米軍はすぐさま村を占領下に置き、ボーロー飛行場を建設しました。B-29爆撃機が配備され、日本本土への襲撃拠点となるはずでしたが日本降伏により作戦実行される事はありませんでした。1977年約80%が返還され、現在はリゾートホテルや観光施設などが建ち並び、リゾート地区として多くの観光客が訪れています。



読谷村役場周辺

読谷村の中央部を占める広大な土地に日本軍は「北飛行場」を作りましたが、米軍が上陸した1945年4月1日の正午には占拠されたという事です。戦後60年を経て返還された北飛行場跡地には、村役場・読谷中学校・野球場・陸上競技場といった施設整備や新たな農業基盤整備や企業誘致など明るい将来を見据え前進しています。

読谷村にある2つの歌碑

さとうきび畑の歌碑

故・寺島尚彦さん作詞作曲の「ざわわ、ざわわ、ざわわ」という歌詞で始まる、沖縄戦の悲しみを歌った「さとうきび畑」。この地から「恒久平和」の発信を誓い、2012年4月に読谷村高志保のサトウキビ畑に囲まれた地に完成しました。



「艦砲め喰え一残さー」の歌碑

2013年6月23日、沖縄戦で家族を失った悲しみを歌った沖縄民謡の名曲「艦砲め喰え一残さー」（カボリメケエナグー）の歌碑が作詞作曲した比嘉恒敏さんの出身地、楚辺のユウバンタ浜に完成しました。